

サービスの目的

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、排せつ及び食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供その他の便宜を適切かつ効果的に行います。

サービスの運営方針

どんな障害を抱える者も創作的活動と生産活動を主たる活動として集団づくりやからだづくりに取り組み、ひとりひとりの豊かな生活と発達をめざします。みんなの「みゆき広場」になるよう地域に開かれた施設を目指し、成人期障害者の福祉向上のため、地域の皆さんと共に歩んでいきます。また、事業の実施にあたっては、前述のほか、関係法令等を遵守します。

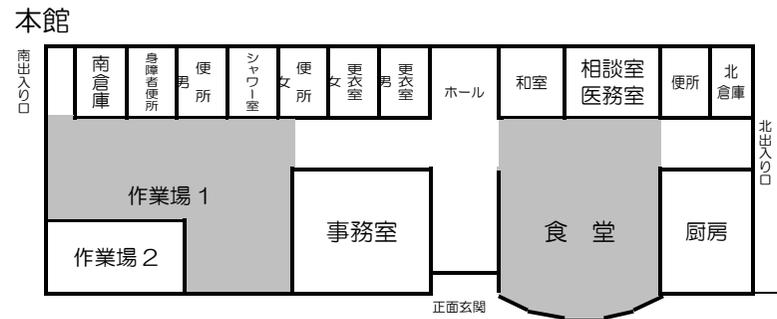
沿革

- 1986年 6月 知的障害者の養護学校卒業後の進路などについて悩みを持つ親が集まり、話し合いを持つ。この集まりを「梅の会」とし以後、作業所作り運動を続けていく。
- 9月 「梅の会作業所」をささえる会 発足
- 1987年 3月 あかつき授産所の敷地内に「梅の会作業所」開所
- 1989年11月 小規模作業所 みゆき広場落成式(新築移転、名称変更)
- 1994年12月 社会福祉法人 歓びの園認可を得る
- 1995年 8月 知的障害者通所更生施設 みゆき広場 開所
- 2009年 3月 新館作業場棟 完成
- 2009年11月 障害福祉サービス事業所 生活介護事業へ移行
- 2013年12月 指定特定相談支援事業所 みゆき広場 開所

◆ 職員構成 ◆

- 管理者 1名 (サービス管理責任者兼務)
- サービス管理責任者 1名 (管理者兼務)
- 看護師 1名
- 生活支援員 17名 (事務員)
- 事務員 1名 (生活支援員兼務)
- 調理員 1名
- 医師 1名 (嘱託)

事業所の概要・平面図



* ■は床暖房完備 587.64㎡ 鉄骨平家建

旧館



135.39㎡ 木造平家建

新館 (増築作業場棟)



84.64㎡ 鉄骨平家建

MAP



指定障害福祉サービス事業所

みゆき広場



敷地 2370.1㎡

(生活介護事業 定員30名)

事業所番号 3411500444

〔所在地〕 〒720-0002 福山市御幸町下岩成 248-1

〔TEL〕 (084) 955-2081

〔FAX〕 (084) 955-2089

〔URL〕 <http://www.yorokobinosono.net>

〔Eメール〕 mail@yorokobinosono.net

年間行事	
4月	春のお楽しみ会
5月	東部地区親善球技大会
7月	デイキャンプ
9月	東部地区親善球技大会
11月	秋のお楽しみ会
12月	歳末感謝祭
1月	新年会
2月	節分
3月	花見

日課	
9:00	登所 朝の会 バイタルチェック
10:00	活動
11:45	昼食
13:00	活動
14:30	ティータイム 終わりの会
15:30	降所

週間カリキュラム

午前 (10:00~11:30)

	月	火	水	木	金	土
1	和紙作り	リラクゼーション	創作	リラクゼーション	和紙作り	ドラッグ
2	リサイクル	散歩	生活	散歩	リサイクル	お料理
3	手作り	手作り	リサイクル	ガーデニング	リラクゼーション	球技
4	箱庭		箱庭			

午後 (13:00~14:30)

	月	火	水	木	金	土
1	ガーデニング	音楽	ガーデニング	全体取組	音楽	
2	散歩	創作	散歩		散歩	
3	手作り	手作り	手作り		創作	

ご利用いただける方

療育手帳をお持ちの方で、障がい支援区分3以上（50歳以上の方は区分2以上）と認定された方。

サービス内容

相談及び援助	利用者及びその家族が希望する生活や利用者の心身の状況等を把握し、適切な相談、助言、援助等を行います。
介護	利用者の状況に応じて適切な技術をもって食事・整容・更衣・排泄等生活全般にわたる援助を行います。
健康管理	日常生活上必要なバイタルチェックや投薬その他必要な管理、記録を行います。また医療機関との連絡調整及び協力医療機関を通じて健康保持のための適切な支援を行います。
創作的活動の機会の提供	創作的活動の機会を提供します。
生産活動の機会の提供	軽作業等の生産活動の機会を提供します。
食事	希望により食事の提供をします。
送迎	希望により送迎車両による送迎を行います。
その他	指定外医療機関への薬受取、施設外での買物代行などその他のサービスについては実費をいただきます。

本館



旧館



新館



門柱



新館作業棟の説明

新館作業棟は集団生活が困難な利用者に対し、利用者の様子に合わせた個人活動スペースを作り、安心できる環境のもとで活動を行なってもらうことを目的として新築しました。

新館では、和紙づくり、手作り、創作、ガーデニング、生活、広報の活動を行っています。

本館と新館作業棟で活動する利用者を分けたことで、集団の中で過ごす事が困難な利用者は、パニックを起す事なく、見通しを持って1日を過ごす事ができています。

新館内部 A



B



C



D



新館内レイアウト

